

B. 保護者による評価・教師による自己評価

保護者による評価 調査期間 令和2年11月30日～12月12日 集計総数270通 回収率67.3%
 教師による自己評価 調査期間 令和2年11月14日～12月18日 集計総数23通 回収率100.0%

◎ 教師による自己評価は4段階、保護者による評価は「わからない」を含めた5段階で評価しました。

◎ 数字は人数です。

◎ 各グラフ右側の数字は、その項目の評価の平均点です。

最上段が令和2年度 2段目が令和元年度 3段目が平成30年度

とても思う=4点 だいたい思う=3点 あまり思うわない=2点 思わない=1点

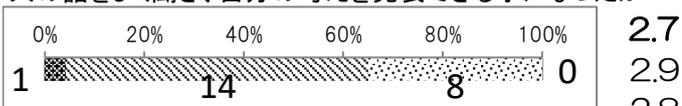
「わからない」は母数から除く

(1) 教育目標の具現化を児童の実態から考える

【教師による自己評価】

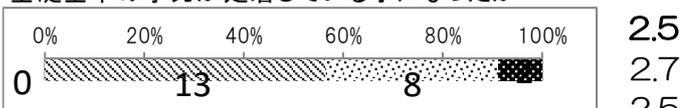
教育目標「考える子」

人の話をよく聞き、自分の考えを発表できる子になったか



2.7
2.9
2.8

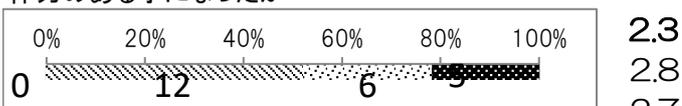
基礎基本の学力が定着している子になったか



2.5
2.7
2.5

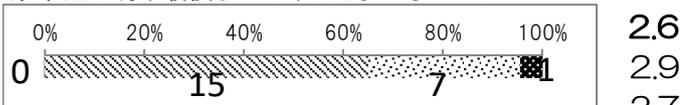
教育目標「ねばり強い子」

体力のある子になったか



2.3
2.8
2.7

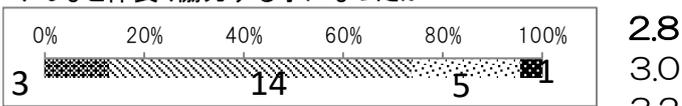
集中力があり最後までやりぬく子になったか



2.6
2.9
2.7

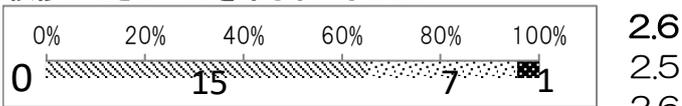
教育目標「心豊かな子」

みんなと仲良く協力する子になったか



2.8
3.0
3.2

挨拶ができるルールを守る子になったか



2.6
2.5
2.6

『考える子』について

「Q話を聞き考えを発表する」については、若干下がりましたが朝会時の6年生のスピーチは素晴らしく、全校での聞く態度も向上しています。更に多くの子供が発表力、聞く力を高められるよう、ルールやマナーとともに引き続き指導していきます。「Q学力の定着」については、昨年よりやや下がった評価でした。全ての子供に基礎学力を定着させるため、引き続き家庭との連携、放課後の学習時間の工夫をしていきます。

『ねばり強い子』について

「Q体力」「Q集中力」については、いずれも昨年度より評価は低くなりました。特に「体力」には低い評価が付いています。令和2年度は新型コロナウイルス対策での「三密を避ける」という条件のもと、運動の機会や方法に大きな制限がかかりました。次年度は体育科の時間のみならず、休み時間等でも運動に親しむ習慣作りに取り組んでいきます。

『心豊かな子』について

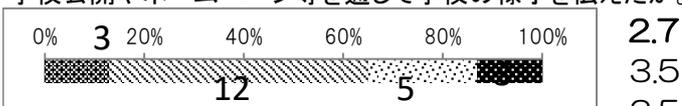
「Q仲良く協力する」について、年々減少傾向が見られます。人間関係のトラブルのときには、自分の気持ちや思いだけを主張したり、行動に移したりする姿がよく見られます。次年度は「相手意識」をお互いにもつことをテーマに指導にあたっていきます。「Q挨拶やルール」については、評価が上がりました。友達や上学年、大人等への言葉遣いについては、場面に応じた話し方を今後も続けていきます。挨拶については、登校時の教員によるあいさつ・出迎えが効果を上げました。しかし、児童の挨拶への意識には二極化傾向も見られます。挨拶習慣が身に付くよう、今後も指導していきます。

(2) 経営方針の具現化から考える

① 地域を大切にし外に開かれた学校

【教師による自己評価】

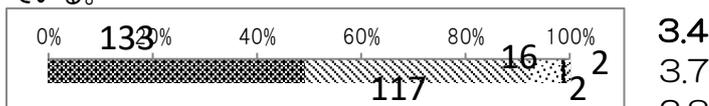
学校公開やホームページ等を通して学校の様子を伝えたか。



2.7
3.5
3.5

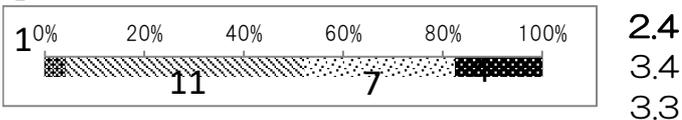
【保護者による評価】

学校公開、行事、学校だより等を通して学校の様子が伝えられている。



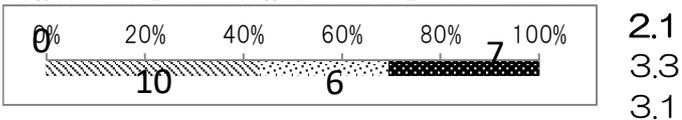
3.4
3.7
3.8

地域の人材活用、地域の教材化、地域行事への参加等はできたか



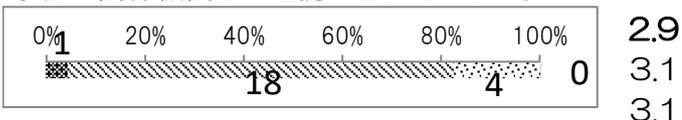
2.4
3.4
3.3

保護者会等を通して保護者の意識を受け止めたか。



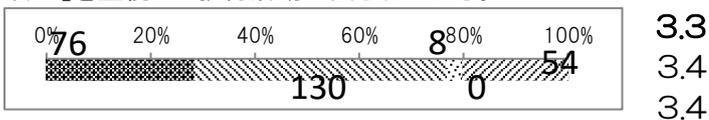
2.1
3.3
3.1

家庭や関係機関との連携はとれていたか。



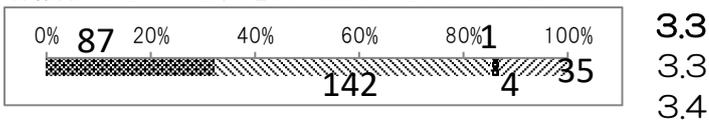
2.9
3.1
3.1

本年度教育の重点である「主体的に学ぶ子供の育成・かかわり合い」を重視した教育活動が図られている。



3.3
3.4
3.4

保護者の思いや意見を受け止め、適切に対応している。



3.3
3.3
3.4

「Q学校公開やホームページ」「Q保護者や地域の教育力の活用」「Q保護者の思いや意見・家庭との連携」「家庭や関係機関との連携」については、教師の評価が大きく下がりました。今年度は感染症拡大防止の観点から、学校公開の実施に制限をかけたり、中止したりと、保護者の皆様と実際にお会いし、お話しする機会が大きく減ったことが原因と考えられます。来年度も、今年度と同じように様々な場面で制限がかかることが予想されますが、そのような中でも、学校での様子や児童の姿が保護者の皆様に伝えられるような方法を模索してまいります。

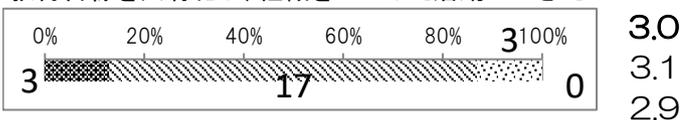
「Q保護者や地域の教育力の活用」については、今年度は実施できませんでしたが、日本伝統文化体験、本の読み聞かせ、昔遊び交流等を継続するとともに、さらに地域の方に協力いただける学習材の開発、ボランティアの充実をし、活動の様子をHP等で広報していきます。

「Q保護者の思いや意見・家庭との連携」については、個人面談を再開させ、説明や連携などの個別対応を丁寧に行う等、引き続き、学校として組織的な対応を行ってまいります。

②教職員が互いを信頼する、内に開かれた学校

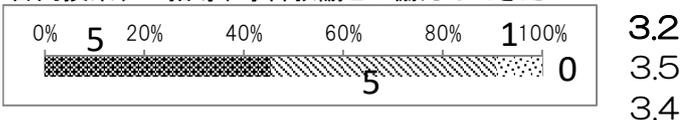
【教師による自己評価】

教育目標を共有化し、組織を生かした活動ができたか



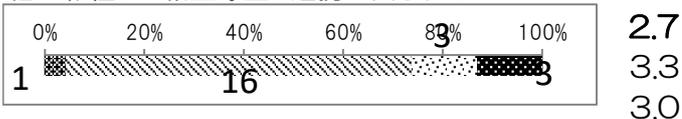
3.0
3.1
2.9

合同授業、TT指導、専科教諭との協力はできたか



3.2
3.5
3.4

他の職種との相互尊重と連携は図られたか



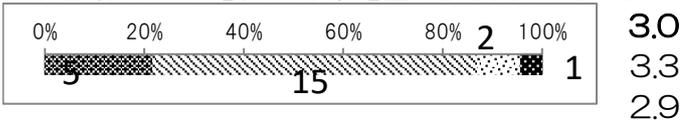
2.7
3.3
3.0

「Q目標の共有化と組織」「Q指導での協力」「他職種との連携」については、教師による評価が下がりました。「密を避ける」という制限下では多人数による多様な交流や、外部人材との連携が躊躇されたことが原因と考えられます。そんな中でも令和3年度では引き続き、TT講師や専科講師等との学習指導連携、給食室・主事室・事務室と協働しながら更なる環境改善、外部関係機関・保護者・地域との情報連携、地域コーディネーターの実績を生かした活用、等を工夫していきます。

③学ぶ素晴らしさを実感できる学校

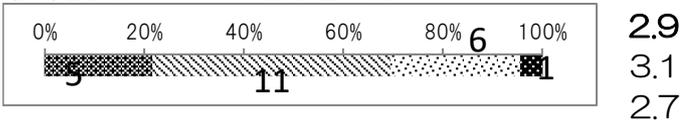
【教師による自己評価】

1単位時間の工夫を行い、組織を生かした活動ができたか



3.0
3.3
2.9

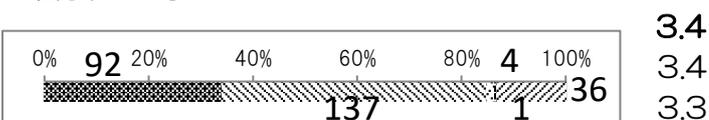
教師としての力量の向上は図れたか



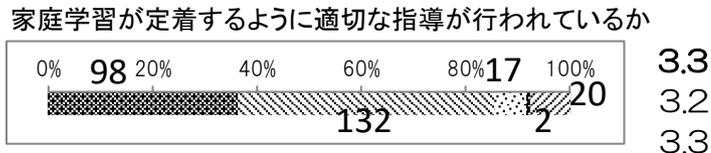
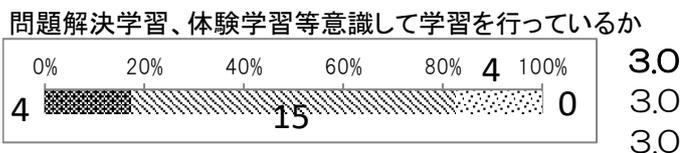
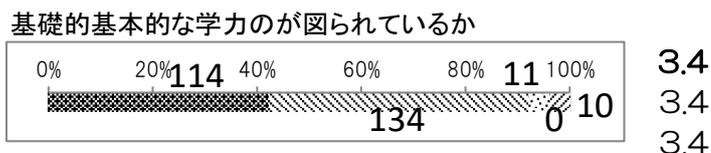
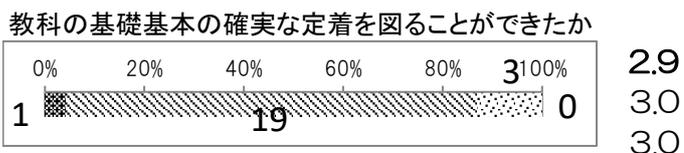
2.9
3.1
2.7

【保護者による評価】

道徳の時間をはじめ、さまざまな指導を通して心の教育の充実が図られているか



3.4
3.4
3.3



「Q道徳の時間の心の教育」については、概ねよい評価を保護者からいただきました。今後も道徳指導について研修を深めるとともに、令和3年度も積極的に授業公開し、取組状況の広報を重点的に行っていきます。

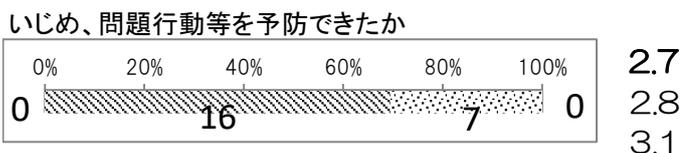
「Q教師としての力量」については、教師が厳しく自己評価しています。日常の授業を公開する、外部での研修を深める、自主研修を充実させるなど、今後も一人一人の教師が力を高められるようにしていきます。

「Q学力の向上・基礎基本の定着」については、引き続き算数での習熟度別少人数指導、授業中の机間指導時の個別の声掛けを充実させるとともに、個別指導の実施方法の工夫を行っていきます。

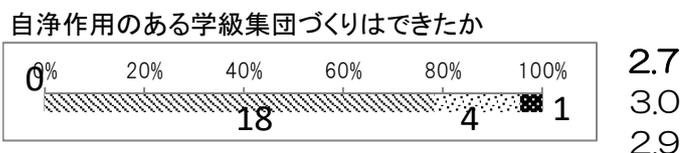
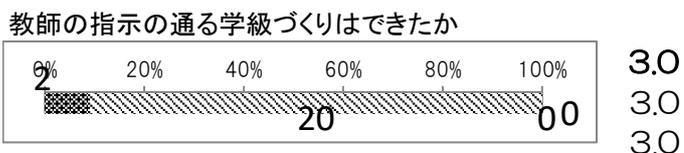
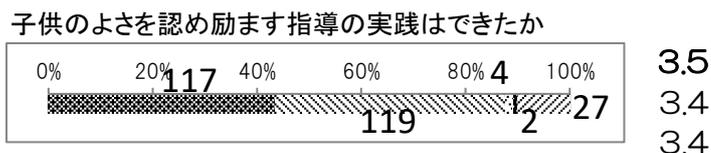
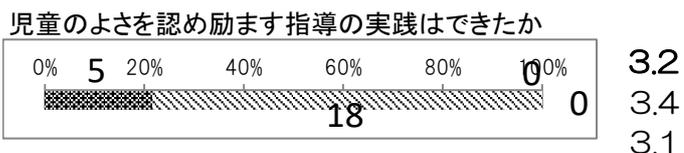
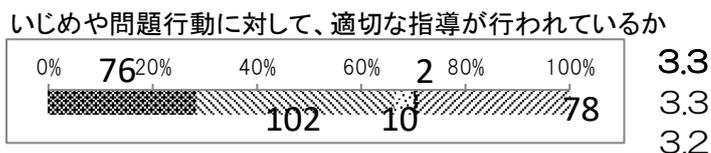
「Q問題解決学習・体験学習」については、令和2年度は各教科の特質に応じた「プログラミング学習」を校内研究で取り組みました。令和3年度では区から配布されたタブレットも活用しながら、論理的思考を基に、問題解決に向けて児童が主体的に学習に向かう姿が発揮されるよう、授業を工夫していきます。

④自由と規律のある学校

【教師による自己評価】



【保護者による評価】



「Qいじめや問題行動」については、日常の様子を細やかに見取り、児童との面談等を行って児童理解に努めてきましたが、29%の保護者が「わからない」と回答しています。これについては、対応が個別であったり、情報管理の面があったりするため、保護者の皆様に周知しにくいことも影響していると考えられます。いじめを未然防止・即解決する方針、家庭と学校間の情報共有・共同対応、等をキーワードに、いじめを許さない姿勢を教師が見せ、いじめを生まない土壌を引き続き目指していきます。

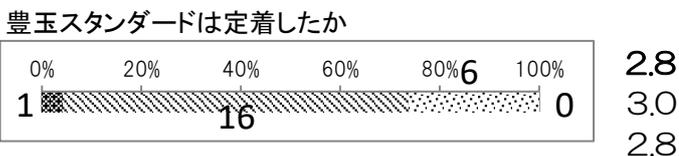
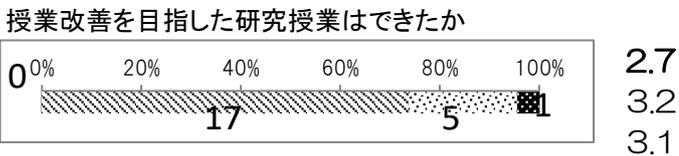
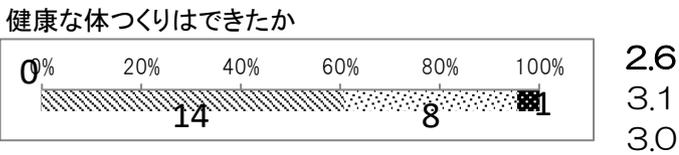
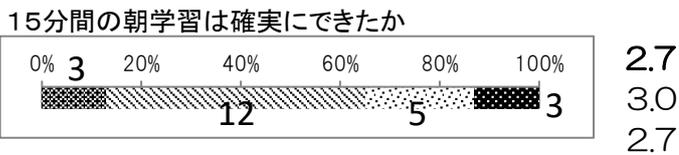
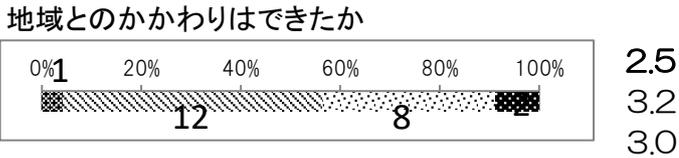
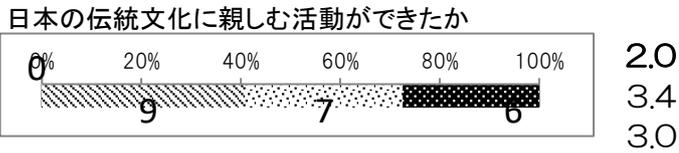
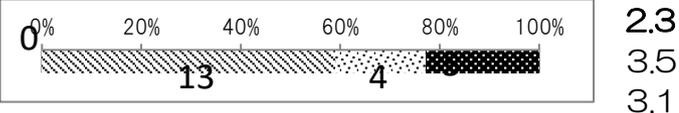
「Qよさを認め励ます」については、教師は高い意識をもって指導に当たり、保護者の評価でも高い評価を得ました。学校生活を通して、できる場を設定する、子供たち同士が認め合う場を設ける、教師が一人一人を認めてよさを励まし自信と意欲につなげる、等「褒める」言葉かけを継続して、全ての子供が笑顔で通える学校を目指していきます。

「Q指示の通る学級づくり」「Q自浄作用のある学級集団づくり」については、引き続き学年・学級ルールの確立や豊玉スタンダードの実践、教師の指示の仕方の更なる向上、風通しのよい学年経営での共通理解、等を通して指導を行っていきます。また、児童自身がクラスや学校をよりよくしていこうとする気持ちを発揮し、学校の一員として参加している自覚を感じられる活動を計画し、日々の教育活動で実践していきたいと思ひます。

⑤特色ある教育活動を推進する学校

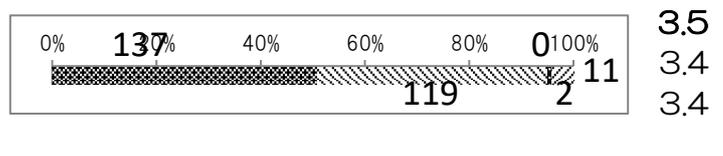
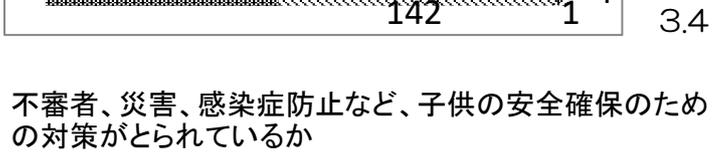
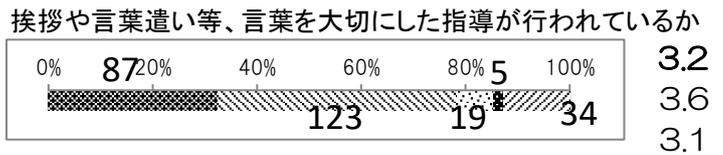
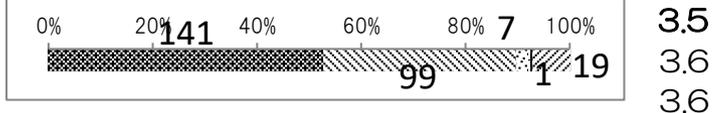
【教師による自己評価】

縦割り生活班を中心とした異学年の交流は実践できたか



【保護者による評価】

縦割り生活班を通して異学年の交流が行われているか



「Q縦割り生活班での異学年交流」「Q健康な体づくり」「Q安全対策」については、保護者の皆様から良い評価をいただきました。特に異学年交流では、新しくスポーツフェスティバルでの合同競技を実施し、元気に楽しみながら子ども同士の交流が生まれる取り組みを実施することができました。令和3年度は、新しい交流の形を模索するとともに、中学年がリーダーとなる場面の設定も検討していきます。

「Q日本の伝統文化に親しむ活動」「Q地域とのかかわり」については、感染症対策を継続しつつ、伝統文化体験、和楽器授業、昔遊びの計画的な実施などを継続していきます。

「Q言葉を大切にした指導」では、保護者の評価が減少しています。特に「あいさつができる人になってほしい」という要望が届いていました。教師自身がていねいな言葉遣いや挨拶の手本を示して日常の言語環境を整えるとともに、児童間での言葉遣いを意識付けていくよう、家庭と連携しながら取り組んでいきます。また、大人も子どもも心を開いて普段からあいさつし合える環境と習慣をつくっていきます。

「Q15分間の朝学習」については、今年度は感染症対策の「健康観察」に朝の時間を費やすことになり、十分にできませんでした。令和3年度はタブレットパソコンの活用も検討しながら、朝学習の時間の充実を目指します。

「Q健康な体づくり」では、保護者から高い評価をいただきました。反対に教師の評価は、感染症対策のために多くの制限が体育授業や運動活動にかかった影響から、大きく下がりました。体育授業や休み時間等で更なる運動の工夫を行う、遊びの質・量をさらに向上させる等、日常的な体力向上を継続していきます。

「Q授業改善を目指した研究授業」については、教師の評価が下がりました。今年度は感染症対策を取りながらの授業に意識の多くを割いたことが原因と考えます。令和3年度は、より積極的に授業改善に取り組む意識で、研究授業に取り組んでいきます。

※印刷に不備があったので、＜8ページ目＞の差し替えをお願いいたします。

⑥保護者による自由記述 ～ 記述の一部や全体を省略して記載しております。～

＜HP・インターネット・配布物＞

- ◎HP毎日分かりやすく楽しみにしている。
- ◎コロナ禍で学校での日常の様子、子どもたちの様子が伝わりにくかったので、もっと発信してほしい。
- ◎コロナ禍の情報について分かりにくいことが多かった。状況をもう少し明確に伝えてもらいたかった。

＜挨拶・言葉遣い＞

- ◎周りからのあいさつに無反応であったり、声が小さくて聞こえない。あいさつを返さない子も多い。
- ◎以前行われていた登校班別の挨拶運動が良い取り組みと感じているので、続けてほしい。
- ◎挨拶運動はとても良い取り組みだと思う。運動しなくても自然と挨拶できるようになってほしい。

＜いじめ＞

- ◎いじめ防止の標語を作ったことにより意識が高まった。
- ◎個人面談がなかったため、今年度は実態が分からなかった。
- ◎いじめや問題行動などは、年度やクラスが変わっても続いていることもある。

＜学習面・宿題・家庭学習・学力＞

- ◎今年度はコロナ禍の為、学習スピードや宿題のペースがとても速いように感じた。
- ◎急な休校になったことで宿題が多く、親の指導が必要なことが多く、面倒見切れず大変だった。
- ◎感染症予防対策を行いながらの教育活動に感謝している。親子共に教育や学習の重要性や「多様な学び」について再確認することができた。
- ◎いつも丁寧なご指導に感謝している。主体的に学ぶ子供の育成については、来年度も引き続きお願いしたい。
- ◎休校中も課題があり充実した日々だった。友達との関わりや社会の中で学ぶことができるのは学校であると実感した。
- ◎ICT教育の進め方の情報を提供してほしい。
- ◎担任によって宿題の内容や量に違いがある。家庭学習の量や内容は、学年で等しくなるようにしてほしい。
- ◎コロナ禍で休校になっても、「学び」を続けられるようにオンライン授業の導入も検討いただきたい。

＜安全面＞

- ◎例年通りに活動できない中、安全安心を考えつつ子供たちの活動を広げていただいてありがたい。
- ◎様々な感染予防のおかげで、楽しく通いながら、自然と感染予防を意識した行動がとれるようになった。
- ◎ランドセルに入れて帰るものが多くなり、大変重い。学校に置いて帰ってよいものを検討していただきたい。
- ◎不審者の怖さを知らず、帰宅時間の約束を守れない。時間を守る大切さを一緒に共有してもらいたい。

＜教師とのかかわり＞

- ◎親より先生方のほうが我が子を褒めてくださっています。
- ◎子供たちの心の安定のために、指導も大事だが、心の交流を大切にしてほしい。
- ◎予期せぬ感染症の出現、流行に対し、現場の先生方が本当に身を削ってできる限りの対策・対応をしてくれた。心より感謝している。そのことで通常+αの業務が加わる中、学習はもちろん、子供同士のトラブルまで業務範囲が広すぎて心配になる。どうぞご自愛ください。
- ◎コロナ禍で、学校の様子が分からないことは仕方がなく、その中で適切に対応してくれている。
- ◎いつも子供たちに寄り添った工夫をこらした教育とふれあいをしていただき感謝している。
- ◎アレルギー対応や困っていることなどを一つ一つ丁寧に見ていただいて感謝している。

＜その他＞

- ◎読書週間はとてもいい取り組みで、子供が本を読むようになった。
- ◎制限が多い中でも、できる限りの体験を子供たちにさせてもらえて感謝している。
- ◎学校公開が学校について知ることができる機会だと実感した。11月より再開し、ありがとうございます。
- ◎子供たちの遊びの時間も大切にしたい。何とか、全学年外に出られるようにはできないか。
- ◎ネームカードをし、北門からいつも入っているが、名前と時刻を記入するのみで誰でも入れてしまい、防犯上危ないと感じる。ボランティアで保護者が入口で座るなど対策をとる方がいい気がする。消毒作業など、春から大きな変化の中対応してくれて感謝している。子供を安心して送り出せるのは、豊玉小学校の先生方、スタッフの方々のおかげです。
- ◎コロナ禍という大変な状況下で、感染症予防を徹底して行い、可能な限りの教育活動をしてくださって感謝している。試行錯誤な状況が続く中、子供たちが安心して元気いっぱい過ごせる豊玉小に期待しています。
- ◎6年間子供を通わせてとてもいい学校だと実感した。子供も学校が大好き。

頂いたデータやお声を地域教育懇談会で共有させていただくとともに、区教育委員会にも報告をいたします。更には来年度の教育活動の改善に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

